



Hamamatsu Museum of Musical Instruments

浜松市楽器博物館だより

No. 18

1999.12.30

平成11年度 海外フィールドワークより

## パプアニューギニアのお祭り “シンシン”



楽器博物館では平成9年度より海外フィールドワークを行っています。楽器とその楽器が奏でる音楽、またその楽器が使われている場所の生活や文化のオリジナル情報を収集し、展示公開するためです。平成9年度のモンゴル、10年度のメキシコ、グアテマラに続く今回は、パプアニューギニアです。

パプアニューギニアは、世界第3位の大きな島ニューギニア島の東半分と周辺の島々からなる国で、1975年に独立したまだ若い国です。今世紀半ばまで石器時代さながらの生活が営まれていたことは、多くの研究者の紹介によってよく知られています。

調査は去る9月10日より23日まで、セピック川中流域の村々を中心に行いました。この地域は、今もニューギニアの古い文化が色濃く残っており、人々は祖先・動物・自然の精霊と深く関わりながら生活しています。

パプアニューギニアの音楽は大きく2つの種類があります。第1は、“聖なる”音楽です。これは男子成人儀礼などの儀式で演奏される音楽で、「精霊の家」と呼ぶ集会所など特定の場所や機会に演奏されます。第2は“俗なる”音楽です。老若男女問わずふだんの生活で皆が楽しむ音楽とえばよいでしょうか。そして、使われる楽器も、それぞれ聖なる楽器、俗なる楽器とされます。

さて、写真は9月16日の独立記念日に、独立記念と村の飛行場の開港を祝ってヤモック村で開かれたお祭り「シンシン」のひとつコマです。シンシンとはパプアニューギニアの共通語であるピジン英語で「祝宴」「踊り」という意味。祝宴全体もシンシンと呼び、祝宴の中で行われる踊りひとつひとつもシンシンと呼びます。そこでの音楽はもちろん“俗なる”音楽です。

手に持っている楽器は「クンドゥ」と呼ぶ太鼓。片手で持ち、もう片方の手で叩きます。丸太をくりぬいて胴を作り、片方にトカゲの皮を張ります。踊りの伴奏には欠かせない楽器です。

この日のシンシンには7つの村が集まり、それぞれ自慢の歌と踊りを披露していました。人々は、ふだんはTシャツなどふつうの洋服を着ていますが、このように祭りの時に派手な化粧をし派手な衣装をまとうのは自分の威信を他人に示し、自分を目立たせて威信をさらに高めるためだそうです。間近に見るとちょっとコワイのですが、あまりの暑さに私たちが地面に座って休憩していると、バナナや椰子やパイナップルを差し入れてくれるという、とてもやさしい人達でした。(K.S)

## 展示室の声 風が奏でる音～スナリ～



写真1：アジアアフリカ展示室

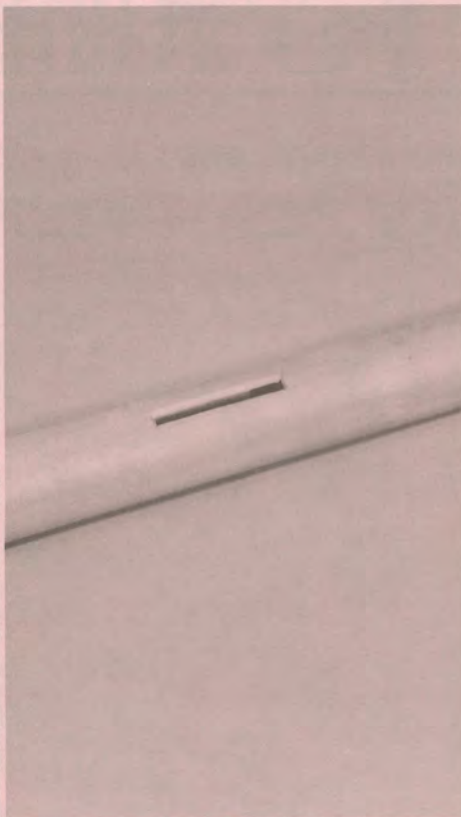


写真2：スナリ

“くろがねの秋の風鈴鳴りにけり”（飯田蛇笏作）、明治時代、このような俳句が詠まれています。風に揺られる風鈴の音に涼を感じる夏、軒下に忘れられた風鈴にもの悲しさを覚える秋、そして冬。季節の移ろいを、こんな風にした経験はないでしょうか？風の変化を、私たちに知らせてくれる“風鈴”。

冒頭で紹介した俳句のように、日本人には昔から、風の音に季節を感じる、そんな感性がありますが、世界には、私たちの感覚とは少し異なり、同じ“風の音”を違うものとして受け取る文化があるようです。今回は、そんな楽器を紹介します。

アジア・アフリカ展示室、その天井に向かってスーと伸びている竹が数本あります（写真1）。それを目にした方々が、“年末の煤払いに使うほうきかしら？”、“名板が付いているけど、これって楽器なの？”、“どのように演奏するのだろうか？”という言葉が漏らしているのをよく耳にします。

これらは、インドネシア、バリ島とその隣のロンボク島に見られる楽器、“スナリ”。風が奏でる楽器です。よく見ると、節と節の間に穴が開けられています（写真2）。その穴に風が吹き込んだときに音が発せられます。円、三角、四角、S字、十字、三日月など様々な形に開けられた穴の形状、節の間の竹の長さや太さの違い、そして、瞬間、瞬間の風の気分により多様な音が奏でられます。ヒンドゥー教の祭礼の場を取り囲む形で何本かが立てられます。いくつかの穴から風が吹き込み、まるでたくさんの人々がハミングしているかのような音が聞こえてくるそうです。人々は、この音に“稲の女神の声”を聞くのだとも言われています。頭上から降り注ぐ、重なり合う音に神のを感じる、何とも神秘的ですね。

日本の“風鈴”、インドネシアの“スナリ”、それぞれから聞こえてくる“風の音”。どのような違いがあるのでしょうか？残念ながら、予報によると展示室内は今日も無風とのこと。まだ、聞くことのない神の声…そのような想像をしながら見学するのもまた一興ではないでしょうか。（M.T）

# 研究ノート 博物館とインターネット ホームページ

## はじめに

博物館や美術館（以下「博物館」）では、教育普及活動として、企画展、特別展、講座他、様々な事業が開催されます。今までは事業の開催案内は、館発行のパンフレット、チラシ、公立の場合はそれぞれの自治体の広報誌、規模が大きな事業では、テレビ・ラジオ・新聞等のマスメディア等を通じて皆さんに周知されてきました。これに加え、最近ではインターネットのホームページを広報に利用する博物館も増えてきました。そのうちのいくつかは、事業案内にとどまらず、画像付の収蔵資料のデータベース、仮想の展示室ツアーなど新しい試みも行われています。

浜松市楽器博物館でも、今年12月より公式のホームページを公開しています。今回の研究ノートでは、博物館でのインターネットのホームページの役割を考えてみます。

## 学校教育とインターネット

文部省では、教育の情報化は日本の教育における最重要課題である、と位置づけ、新学習指導要領（小中学校では平成14年度、高校は15年度から正式実施）で、小中高の教科「総合的な学習の時間」、中学校の「情報とコンピュータ（技術・家庭科）」、高等学校の教科「情報」の新設を定められました。また、これに伴い、「バーチャル・エージェンシー教育の情報化プロジェクト」を立ち上げ、具体的なコンピュータ教育の方向性を示しています。この中で、博物館や大学、研究機関における教育用ホームページの作成開設の推進がうたわれています。（※参照ホームページ <http://www.monbu.go.jp>）

## 浜松市楽器博物館のホームページ

ホームページの開設数については一日に何千何万とあり、その数を正確に把握することはできません。ホームページを開設している博物館数についても同様で、正確なところはわかりませんが、現在5,143館（平成11年1月現在）ある博物館施設（類似施設も含む）のうち、1,225の館（平成11年10月20日現在※参照ホームページ <http://www.museum.or.jp>）が何らかの形でホームページを開設しています。設置者は、館、地方自治体、旅行会社、個人などさまざま。浜松市楽器博物館でも、平成11年12月に館独自のホームページを開設するまでは、色々なページに間借りしていました。施設や開催事業の案内が主な内容でしたが、今回の開設にあたり、学校や家庭で子供たちに活用してもらおうと、楽しくてためになるホームページを考えました。

ここで、新たに開設したホームページの内容を簡単にご紹介しましょう。

トップページ（写真）から始まって、

新着情報（近々の事業案内など）

インフォメーション（利用案内、カレンダー、展示案内など）

今月の作曲大賞（楽器博物館内の機器を使って作曲した優秀作品の紹介）

楽器の紹介（収蔵楽器の内50点の画像と音のデータベース）

楽器の勉強（動画を使った楽器のしくみ）

バーチャルミュージアム（マウスを使って楽器博物館展示室を巡回できる）

と、数々のメニューが取り揃えてあります。



## 終わりに

当館のホームページも産声を上げたばかり。これから皆さんにどんどん訪問してもらい、ご意見を参考に成長していきたいと思っています。

ホームページのURLは <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/> です。ぜひご覧ください。

ご意見はメールアドレス [gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp](mailto:gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp) まで。（M.M）

# 博物館のお仕事 ～保存～

博物館の仕事には資料の保存という作業があります。なぜなら、集めた資料を次の世代の人々に引き継がなければならないからです。

さて、資料をただそのまま放っておいても保存にはなりません。どんな資料であっても、たとえ動かさなくとも、ゆっくりとその姿を変えていきます。乾燥が進んだり、割れたり、虫にくわれたり、色がとれてきたり、ネジが固まったり…。そこで、急激な変化を避け、資料が壊れていくのをできるだけおしとどめる作業が必要になります。ここで保存関連の作業全てを紹介することはできませんので、作業間隔が毎日、月一回、年に1回のものの中からいくつかをご紹介します。

毎日の作業として、資料の目視点検をし、目で確認できる範囲で資料に異常がないかを見ます。例えば、サビや虫、表面のはがれなどです。また、年間を通じ展示室の温湿度は一定にしておき、加えて、展示室内の別の計器の数値に基づいて微調整をします。

月1回は、楽器の掃除も行います。例えば、金管楽器や木管楽器のキー部分など金属に付くほこりは、湿気を呼ぶためサビのもとです。入り組んだ部分もフロアでほこりを除きます。

1年あるいは数年に1度は燻蒸(くんじょう)という殺虫・殺菌の薬剤散布を行います。経験上、特にアジア・アフリカ展示室の竹やひょうたんには虫がつきやすいです。

以上の作業は物として色や形などを保つための保存作業でした。しかし、若干をのぞき、楽器は音楽を奏でたり音を出したりして使うのが普通ですので「音が出るものとしての楽器」という状態を保存することも念頭におかなければなりません。また、大事にするあまり人目に触れずに隠しておいても仕方ありません。資料を博物館活動の中でどのように使うかを考えながら保存作業をする必要があります。(K.O)



## ♪ 博物館日誌

- 9/5, 12, 26 展示室ガイドツアー
- 9/19 ミュージアムサロン「桶の太鼓」
- 10/3, 10, 24, 31 展示室ガイドツアー
- 10/17 ミュージアムサロン「桶の太鼓」
- 12/4～12/30 海外フィールドワーク速報展(1月20日まで開催中)

## ♪ お知らせ

〈今後の催し物〉

- 展示室ガイドツアー 1/2, 9, 23, 30, 2/6, 13, 27, 3/5, 12, 26  
各日とも11時と14時、展示品解説
- ミュージアムサロン 1/16, 2/20, 3/19  
各日とも11時と14時、楽器ワンポイントミニ講座  
報告会「浜松楽器風土記」14時 研修交流センター
- 1/23(日) 報告会「三遠南信芸能調査中間報告」14時 研修交流センター
- 1/27(木)～2/20(日) 新着資料展(右参照)
- 2/26(土) 報告会「三遠南信芸能調査中間報告」14時 研修交流センター
- 3/25(土)～5/7(日) 特別展「メキシコ・グアテマラ楽器紀行」

新着資料展では貴重な資料をご寄贈いただきました以下の方々の資料も展示いたします。ここにご芳名を記し、改めて御礼申し上げます。(順不同、敬称略)

- 平川 淳三: 箏 3点  
三味線ほか 計6点
- 青木 茂: リード・オルガン
- 松本 吉治: ホラネフ  
ウデッキ  
鈴

- 清水喜代治: リード・オルガン
- 伊吹 広子: 自動ピアノ(アップライト型)
- 菊池 彰子: ハーディ・ガーディ
- 白尾 國利: 天吹
- 朝下たま江: ヴァイオリン  
ヴァイオリン弓
- 生駒 綱雄: 天吹(5点)  
ゴッタン 計6点
- 今敷 道夫: リード・オルガン

平成11年11月現在

### ◆ 8月～10月の入館者数

大人	19,884人
中人	539人
小人	5,414人
幼児	1,226人
合計	27,063人

### 利 用 案 内

開館時間: 火曜日～日曜日 午前9:30～午後5:00  
休館日: 月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、  
12/29～1/1、館内整理日12/8、12/15、1/26、2/23、3/29

観覧料: 個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)

大人(大学生以上)	400円	320円	240円
中人(高校生)	200円	160円	120円
小人(小・中学生)	100円	80円	60円

※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

### 浜松市楽器博物館だより

1999年12月30日発行  
No.18

編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1  
TEL. 053-451-1128  
FAX. 053-451-1129

印刷 株式会社シバプリント